平成 28 年度学校法人智香寺学園事業計画

Ⅰ．法人の部

学校法人智香寺学園は明治 36 年の東京浅草森下町（現在の台東区）で東京商工学校創設以来、平成 25 年度 110 周年を迎えました。この 110 周年を契機とし、平成 26 年度より様々な記念事業を計画し展開しております。平成 28 年度も引き続き、記念事業計画を踏襲し進めていく予定です。

主な記念事業の内容

１．埼玉工業大学「ものづくり研究センター」新築

平成 27 年度着工し、28 年度 6 月完成を目途に工事を進めており、完成後はものづくりの拠点として大いに機能するものと期待している。

２．電気自動車プロジェクトの実施

平成 26 年次世代自動車向けの革新的なものづくり拠点として「電気自動車プロジェクト」を立ち上げた。平成 27 年度に応募した文部科学省の「私立学校教育研究装置等整備費」の内定を受け、平成 28 年度は更に研究活動に注力していく方針である。基本的には「設計・作成チーム」「自動運転研究チーム」それぞれが高い目標を持って取り組んでいく。

４．学内共同研究プロジェクトの募集

平成 26 年スタートした学内研究プロジェクトを更に推し進め、埼玉工業大学発の創造性に富む革新的な研究を推進し、特に若手研究者への支援を引き続き行う。

５．のめりコンテストの実施

ひとつの物事にのめり込んで、その分野で将来大きな成果を出すであろう高校生の発掘を目的とした募集を行う。

Ⅱ．大学の部

１．周年事業

大学は、1976 年(昭和 51 年)に聖橋工業高等専門学校を前身として開学し、平成 28 年 1 月 10 日に、創立 40 周年を迎えることが出来ました。40 周年という節目を迎え、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」をモットーに、単なる実学教育にとどまらず、学生一人ひとりの「こころ」の涵養により一層、力を注いでいきます。本年夏季にはモノづくりの原点を追求した「ものづくり研究センター」が誕生します。地域に開かれた交流の場としての役割も期待されます。今後も地域に必要とされる大学を目指し、特産品などの開発といったレベルに留まらず、自治体や地元企業様と連携して雇用創出や起業の後押しとなる積極的な街づくりに貢献していきたいと考えています。

２．学校教育法改正への対応

平成 27 年度より改正施行された学校教育法について、法に則り規程の整備等は完了した。平成 28 年度に向け、その改正内容を学務運営に反映すべく更なる強化を図ってゆく。

３．学部教育

・質の高い大学教育推進プログラムへの取組
・学生プロジェクトを始めとした学生支援のより強化
・退学者対策の強化

４．学生募集計画

平成 28 年度生の募集は現在進行中であり結果は出ていなが、平成 22 年度から確保している入学定員以上の学生確保に黄信号が灯って状況にある。原因はいくつか考えられるが、平成 29 年度の学生募集に向け、その原因を究明、対策を講じた計画を再構築する予定である。また，平成 29 年度に向けては，本学の基幹学科である情報システム学科に電気系の分野を新設し，更には専攻を明確として専攻別募集を開始することとした。

（A）大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
（博士前期課程）		（修士課程）	
システム工学専攻	６名	情報社会専攻	１５名
電子工学専攻	７名	心理学専攻	１０名
応用化学専攻	７名		
小計	２０名	人間社会研究科合計	２５名
（博士後期課程）			
システム工学専攻	２名		
電子工学専攻	２名		
応用化学専攻	２名		
小計	６名		
工学研究科合計	２６名		

（B）学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	
（機械工学専攻）	７５名	（経営システム専攻）	５０名
（ロボティクス専攻）	４０名	（メディア文化専攻）	４０名
計	１１５名	計	９０名
生命環境化学科		心理学科	
（バイオ･環境科学専攻）	６５名	（ビジネス心理専攻）	２５名
（応用化学専攻）	４５名	（臨床心理専攻）	２５名
計	１１０名	計	５０名
情報システム学科		人間社会学部合計	１４０名
（ＩＴ専攻）	未定		
（電気電子情報専攻）	未定		
計	１３５名		
工学部合計	３６０名		

５．情報公開

平成 23 年４月１日付、学校教育法施行規則の改正に伴い、来年度も教育情報の公表、財務情報など、情報公開の拡充と、多くの最新情報の公開を引続き実施する。

６．研究計画

①ものづくり研究センター（次世代自動車プロジェクト）

26 年度に先端科学研究所に設置されたものづくり研究センターでは、学内プロジェクト「次世代自動車向けのものづくり研究」を昨年度から継続実施し、グリーンエネルギー技術となる新規マグネシウム電池およびレドックス蓄電池の開発、これらの電池を利用する軽量な電気自動車の車体・シャシ設計を行う設計チーム、高速通信とネットワークを利用した自動運転研究会の研究チームを設置しました。特に、 自動車の安全・安心な操作環境の開発、新規なバイオマーカーおよび疲労度（ストレス）センサによる安全性の向上、より利便性のある省エネルギー操作システムおよび人間への適応性を反映する高感度・高親和性となる車内環境の開発などを目指しています。この研究プロジェクトの実施によって、イノベーション技術の創成に熱心かつ、高度な科学技術を身につけた若手研究者やものづくり技術者を育成することが実現でき、埼玉県北部と群馬県太田地域にある多数の自動車関連企業にもたらす地域活性化が期待できると思われます。

また、平成 28 年度 6 月の第 1 回のオープンキャンパスにおいて、自動運転車をお披露目する予定です。

②平成 28 年度科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

【参考】平成 27 年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所　属	代表者	27 年度 直接経費	27 年度 間接経費
基盤研究（C）	新規	機械工学科	趙　　希禄	3,500,000 円	1,050,000 円
基盤研究（C）	新規	情報システム学科	渡部　大志	600,000 円	180,000 円
基盤研究（C）	新規	機械工学科	安藤　大樹	2,100,000 円	630,000 円
挑戦的萌芽研究	新規	先端科学研究所	内田　正哉	2,800,000 円	800,000 円
若手研究（B）	新規	機械工学科	皆川　佳祐	1,400,000 円	420,000 円
若手研究（B）	新規	生命環境化学科	秋田　祐介	1,200,000 円	360,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田　正哉	2,800,000 円	840,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	丹波　　修	2,492,600 円	747,780 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	長谷部　靖	500,000 円	150,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	木下　　基	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	曹　　建庭	1,100,000 円	330,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	山崎　隆治	2,203,600 円	420,000 円
基盤研究（C）	継続	情報社会学科	佐藤　由美	800,000 円	240,000 円
基盤研究（C）	継続	心理学科	友田　貴子	500,000 円	150,000 円
挑戦的萌芽研究	継続	機械工学科	石原　　敦	500,000 円	150,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	長谷　亜蘭	500,000 円	150,000 円
若手研究（B）	継続	機械工学科	小板　丈敏	1,671,623 円	501,487 円
若手研究（B）	継続	情報社会学科	河合理穂子	600,000 円	180,000 円
計			18 件	18,167,823 円	4,159,267 円

７．産業技術展示会への研究展示計画

①埼玉県北部産業技術交流会出展（10 月）
②諏訪圏工業メッセ出展（10 月）
③埼玉県産業教育フェア出展（11 月）
④坂城町ものづくり展（11 月）
④埼玉県ビジネスアリーナ出展（1 月）

８．地域交流計画

①「市民のための公開講座及び心理セミナー」を開催する。
　平成 27 年度（実績）：23 講座（15 日間開催）
②「子ども大学ふかや」の開催(埼玉県教育委員会との協賛事業)
　（子ども大学学長　内山 俊一 学長　　実行委員長：教育研究協力課）
　平成 27 年度（実績）
　　深谷市内の小学生 4 年～6 年生、50 名参加
　　本学会場他 5 日間開催
③彩の国大学コンソーシアムで公開講座の開催
　平成 27 年度（実績）
　　平成 27 年 9 月 17 日（木）川越西文化会館
　　テーマ：臨床心理センター長　三浦 和夫 教授
④正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。
　（協定校：平成 28 年 3 月現在　高校 29 校・専門学校 1 校・日本語学校 1 校）
⑤高大連携協定による学校評議員の推薦
　・埼玉県立熊谷工業高等学校　　井門 俊治 特任客員教授
　・埼玉県立妻沼高等学校　　生命環境化学科　　熊澤　隆 教授
　・埼玉県立深谷商業高等学校　　井門 俊治 特任客員教授
⑥深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。
　・ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣
　・深谷市社会教育委員会委員の派遣
　・メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続
　・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
　・深谷市「砂ぼこり対策協議会」へ委員の派遣
　・深谷市教育委員会と共催で「子ども向け科学講座」の開講
　・日本機械学会主催の「ものづくり教室」を児童向けに開催
　・彩の国いきがい大学熊谷へ講師の派遣
⑦長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携を推進する。
　・坂城町合同企業説明会
　・さかき町企業（製造業）見学会
　・「さかき夏休み子ども体験教室」
　・「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
　・長野県坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
　・長野県坂城中学文化祭「ものづくり教室」開催

９．就職計画

（地域交流）

①坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業

・坂城町企業見学会（9 月に 2 日間実施予定）

・坂城町企業の業界研究セミナー参加（2 月開催予定）

・大学と坂城町企業との意見交換会及び企業見学会（10 月開催予定）

②長野県との「ふるさと信州学生Ｕターン就職促進に関する協定における事業

・長野県内企業との情報交換会（10 月開催予定）

・長野県内企業の業界研究セミナー（2 月開催予定）

③群馬県中小企業家同友会との連携協定における事業

・群馬県中小企業家同友会加盟企業による業界研究セミナー参加（2 月開催予定）

④諏訪工業メッセ関連事業

・諏訪工業メッセにおける地元企業との情報交換会（10 月予定）

・諏訪工業メッセ見学会

（学生支援講座・ガイダンス）

①公務員対策講座（8 月～9 月、2 月～3 月開催予定）

②学年別就職ガイダンス（4 月～2 月複数回実施予定）

③インターンシップガイダンス・インターンシップマナー講座（5・9 月開催予定）

④埼玉県大学就職問題協議会主催：17 大学合同企業説明会（9 月開催予定）

⑤面接突破合宿研修（11 月・2 月開催予定）

⑥面接突破研修（12 月・3 月　複数回開催予定）

⑦ボイストレーニング講座（複数回開催予定）

⑧女子メイクアップ講座（１月予定）

⑨スーツ着こなし講座（１月予定）

⑩厚生労働省による『大学生のための労働条件セミナー』（12 月開催予定）

⑪筆記試験対策講座（ＳＰＩ／ＣＡＢ・ＧＡＢ／クレペリン／ｗｅｂテスト　他）

（学内合同企業説明会等）

①4 年生向け合同企業説明会（4 月・9 月開催予定）

②3 年生向け大手業界研究セミナー（12 月開催予定）

③3 年生向け業界研究セミナー（2 月開催予定）

④3 年生向け合同企業説明会（3 月開催予定）

⑤3 年生向け学内Ｕ・Ｉターン業界研究セミナー（2 月開催予定）

⑥未内定者向け個別会社説明会（9 月以降随時開催予定）

⑦ミニ合同説明会（4 月～2 月複数回実施予定）

⑧個別説明会（4 月～2 月複数回実施予定）

（保護者向け就職ガイダンス）

①4 年生・3 年生・2 年生保護者向け就職ガイダンス（7 月 2 回開催予定）

（学生支援事業）
①ハローワークジョブサポーター相談（4 月～3 月）
②キャリアカウンセラーによる相談（4 月～3 月）
③工学部学生対象工場見学会（埼玉県・群馬県各 2 社見学予定）

（連携事業）
①ジョブサポーター・キャリアカウンセラーによるセミナー（9 月実施予定）

（情報交換会及び加盟団体）
①県及び情報サービス産業協会主催の就職情報交換会参加
②埼玉県大学就職問題協議会
③関東地区大学理工系就職研究会

Ⅲ．高校の部

１．生徒募集状況

平成 28 年度入試は近年にない多くの受験生を集めることとなった。合わせて単願希望者も 300 名を超え、現在も 1,500 名を超える併願合格生徒の公立高校入試結果を待つ状態である。併願合格生徒数に対して、例年の戻り率で計算をすると募集定員を大幅に上回る入学生を迎えることが期待される。これを本校の教育内容や進学実績に対する評価の向上と短絡的に捉えることはできない。今年度の入試結果については、近隣他校の諸事情が追い風となっていることは明らかであるが、今回の入学者数の増加を絶好の好機と捉え、本校の教育内容を広く知っていただくよう最大の努力を図っていきたい。

２．耐震リニューアル工事完了

平成 25 年 7 月より平成 28 年 2 月まで、足掛け 4 年、3 期にわたった耐震リニューアル工事が完了した。これにより 1 号館・2 号館・3 号館校舎、ならびに体育館の安全性の向上に合わせて、LED 照明の採用、大型黒板の導入、空調機の新設など教育環境の充実が図られることとなった。今後はなお一層の教育内容の充実を図っていきたい。

３．学校方針

これまで財政面の健全化は本校の至上命題として掲げながら、改善できていない以下の 3 項目について、具体的な方策を検討し、実現を図っていきたい。
①通学バスの費用の圧縮
②奨学金額の適正化
③クラス数の適正化（1 クラス当たりの生徒数を増やす）

本校が私立高校として存在していくためには、財政面の健全化を図ることは至上命題である。合わせて、大学入試改革に伴う国の教育改革に遅れることなく、教育内容の充実を図ることも大きな課題である。両面の実現は非常に困難な道のりではあるが、新たに今後 5 年間にわたる中期計画（正智深谷高校イノベーション計画／SHIP）を策定し、これに基づく具体的な事項に全教職員で取り組んでいきたい。

中期計画は 5 年間での実行項目を掲げているが、3 年後の平成 30 年度を目処に一旦の完成を目指したい。中でもスポーツ系・S アスリートクラスの発展的解消については、クラス数の適正化を実現するためにも実行必須事項である。平成 29 年度入学生からの実現に向けて諸問題の解消に全力で取り組むが、在校生との刷り合わせや募集活動への影響を考慮し、可能な限り円滑な新系統制への移行を図りたい。そのための諸問題の解消に時間が必要と判断した場合は、平成 30 年度での完全実施としていきたい。

また、今後の教育改革により求められる学力が変化することが予想される。社会のニーズも知識中心型学力（ｼﾞｸﾞｿｰﾊﾟｽﾞﾙ型学力）から問題解決型学力（ﾚｺﾞ型学力）へと変化していくであろう。ニーズの変化に対応するために、平成 28 年度より問題解決型授業（PBL／Project Based Learning）・双方向型授業への転換を図るために、教員研修を計画的に実施し、順次授業への導入を図っていきたい。平成 29 年度には全ての教科・授業で導入し、大学入試改革や求められる学力の変化に対応していきたい。

正智深谷高校イノベーション計画　S.H.I.P.　Shochi Fukaya High school Innovation Plan

ビジョン（航海図）に基づき、明確な教育目標（目的地）に向かって、教職員（乗組員）が一致団結して邁進していく姿を大型帆船（ship）にたとえる。航海図が無ければ迷走する、目的地が無ければ進路も決まらない、乗組員の意識がまとまらなければ船は動かない。漕ぎ出す大海は、レッドオーシャン（赤い海／血で血を洗う競争の激しい領域）ではなく、ブルーオーシャン（青い海／競合相手のいない領域）。乗組員の意思統一、一致団結なくして明治以来の大教育改革の荒波を乗り越えていくことはできない。私たち自身が新しい風を巻き起こし、一歩ずつ確実に目的地に向かって行くために、以下のキーワードに基づいて各項目に取り組んでいきたい。

原点回帰

・建学の精神への立ち返り　→　他校には無い強みをどのように生かしていくべきか
・仏教精神に基づく人間教育（優しさ・勇気・思いやり・気配り）
・総合学習、宗教教育の効果的な活用

不易流行

「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」（去來抄／向井去來）
「不易」　→　時を越えて不変の真理
・生活指導　→　挨拶・身だしなみ・服装・規則遵守
・人間教育　→　優しさ・勇気・思いやり・気配り
・一般常識　→　将来の社会人として身につけておくべき基本

「流行」　→　時代や環境の変化によって革新されていく法則
・PBL 型授業　→　ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ（問題解決双方向型授業）への取り組み
・ICT 教育　→　ICT（ﾀﾌﾞﾚｯﾄ・PC 等）を活用した授業への取り組み・ICT ﾘﾃﾗｼｰの定着
・グローバル教育　→　英語授業・資格取得・海外研修・修学旅行など
・新たな参加体験型プログラムの検討　→　学校行事・校外学習・研修など

地域密着

・近隣の小中学校との連携　→　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・ｽﾎﾟｰﾂ指導・ｲﾍﾞﾝﾄ参加・交流会など
・学校施設開放　→　教室・体育館・ﾎｰﾙ・図書館・ﾍﾞｰｶﾘｰｺｰﾅｰなど
・全く新しい発想での地域交流の検討　→　（例）スポーツ NPO・放課後学習支援・市民公開講座など
・情報発信　→　本校での取り組みの発信＝ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ・学校新聞・ｲﾍﾞﾝﾄ参加など

正智プライド

・愛校心の醸成
・教職員が一体となって向き合う教育
・全てのベクトルを生徒の未来へ向ける
・誇りを持って社会へ送り出す教職員。誇りを持って学び、巣立って行く生徒達。

S.H.I.P.【正智深谷高校イノベーション計画】　～今後の正智深谷高等学校のヴィジョン～

年度	本校の動き		国の動き
	実行項目	検討課題	
S.H.I.P. 1 平成 28 年度 （2016 年度）	①ミッションの策定。 ②行動指針に基づく実践。 ③実用英語検定目標級設定／合格目標に向けた全校での取り組み。 Sﾌﾟﾗｽ・Sｾﾚｸﾄ（2 級） ｱﾀｯｸ P・ｽﾎﾟｰﾂ系ﾄｯﾌﾟ（準 2 級） ｱﾀｯｸ A・ｽﾎﾟｰﾂ系ﾌﾗｯﾄ（3 級） ④PBL 研修実施【計 10 回】ならびに授業への試験的導入。（ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ・ICT 教育を含む） ⑤公開授業の定期的な開催 ⑥ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙﾈｯﾄﾜｰｸによる改革支援。	①系統再編に向けたｶﾘｷｭﾗﾑ・時間割等 ②スクールバス有料化／路線の見直し ③【正智深谷高校ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ宣言（仮）】の策定 ④今後の週 5 日制／3 学期制への移行 ⑤修学旅行（内容・方面など） ⑥宗教教育（総合学習・行事など） ⑦英検必達目標達成に向けた具体的な施策 ⑧今後の特進の方向性	
S.H.I.P. 2 平成 29 年度 （2017 年度）	①スポーツ系・S アスリートを発展的解消。 新しい枠組みによる系統制へ移行。 ②スクールバス有料化／新路線での運行。 ③PBL を全ての教科・授業で導入。 ④【正智深谷高校ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ宣言（仮）】発表。 （次の 10 年に向けた本校の基本方針） ⑤ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙﾈｯﾄﾜｰｸによる改革支援。 ⑥SHIP 1 の継続実施。	①新ﾃｽﾄに向けた情報収集／具体的な対策 ②目安基準の引き上げ ③募集定員の見直し ④新学習指導要領に向けた検討／準備	①新学習指導要領の告示 ②新ﾃｽﾄに向けたﾌﾟﾚﾃｽﾄ準備／実施
S.H.I.P. 3 平成 30 年度 （2018 年度）	①【正智深谷高校ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ宣言（仮）】に基づいた学校運営を全面開始。 ②SHIP 2 の継続実施。	①新ﾃｽﾄ向けた情報収集ならびに具体的な対策 ②進学学習指導要領に向けた検討／準備	新学習指導要領の周知・徹底
S.H.I.P. 4 平成 31 年度 （2019 年度）	①SHIP 3 までの振り返りと修正 ②修正案に基づいた軌道修正と実行	①新ﾃｽﾄ向けた情報収集ならびに具体的な対策 ②新学習指導要領に向けた検討／準備	高等学校基礎学力ﾃｽﾄ（仮称）導入
S.H.I.P. 5 平成 32 年度 （2020 年度）	①SHIP 4 までの振り返りと修正／SHIP の完了	（平成 34 年より年次進行で新要領へ移行）	大学入学希望者学力評価ﾃｽﾄ（仮称）導入